

第1回秦野市伊勢原市環境衛生組合クリーンセンター 施設検討委員会専門部会議事録要旨

1 日 時 平成20年2月4日（月）午後2時00分～午後5時00分

2 場 所 秦野衛生センター会議室

3 出席者

(1) 委 員 栗原委員（部会長）、横田委員、内田委員、荒井委員

(2) オブザーバー 伊勢原市経済環境部長

(3) 事務局

ア 伊勢原市 経済環境部環境美化センター所長

イ 秦野市伊勢原市環境衛生組合（事務局長、工場長、施設計画課長他）

ウ （財）日本環境衛生センター

エ 八千代エンジニアリング(株)

4 内 容

(1) 部会長の選任について

部会長：栗原委員

(2) 事業者選定方法について

- ・ 仕様書に記載した項目に対しては、メーカーは満足した設計を行うため、評価に差がでないとの意見があった。
- ・ 総合評価落札方式の場合、技術と価格の比率をどう設定するかによって、技術点の低い業者でも価格点で逆転し落札する場合があるとの意見があった。
- ・ 総合評価落札方式の事例が少なく、技術と価格の配分の比率として6対4はあるが、7対3はまだないとの意見があった。
- ・ 一般の方からすると、価格は一番わかりやすい。技術は見えないが、価格は見えるとの意見があった。
- ・ 総合評価落札方式では、入札公告の際に評価項目・評価方法を公表することになるが、内容については学識経験者の意見を聞くことになるため、専門部会で審議した結果を施設検討委員会で決定する流れになるのでは

ないかとの意見があった。

(3) 設計基本条件について

- ボイラー水に井水を使うとなると、除鉄装置等の付帯設備が必要となる場合もあり、できれば使わない方が良いとの意見があった。
- 余熱利用での蒸気タービン基数については、2基より1基の方が良いとの意見があった。
- ボイラー蒸気条件は、過熱器の材質が良くなり最近の施設では4MPa、400℃を採用しているとの意見があった。
- 余熱利用については、各社が同じごみ質条件で設計しても回収できるエネルギーは異なることから、場外余熱利用についてはある程度規定しないとプラントメーカーが提案できないのではないかとの意見があった。
- 排ガス目標値のK値11.7の大気汚染防止法の数値だけでなく、濃度も記述した方が分かり易いとの意見があった。
- プラットホームの奥行き20m以上は過大であり建築コストに影響するとの意見があった。
- ごみピットの奥行きについて、ごみクレーンバケットを基準にして決めた方が良いとの意見があった。
- ダブルバグフィルターは、消石灰の入らない1段目の飛灰を熔融するため、消石灰により排ガスを脱塩処理した塩基度の高い2段目の飛灰と分けるために考えられた。
しかし、1段目の飛灰も塩基度が高く熔融温度の問題等から、最終処分場があるならば、熔融は焼却灰のみとし飛灰はしない方が良いとの意見があった。

(4) その他（次回日程等）

- 第2回専門部会は、委員会の進捗状況等を踏まえ改めて相談させていただき、設計基本条件及び仕様書案の内容確認はメールで行うこととなった。

- 本日の専門部会の資料は非公開とする。ただし、次第と議事録要旨は全員の承認を得た上で公開する。